

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 おうとう新品種の開発

6月上旬から収穫できる早生で硬肉質の白肉優良品種を中心に、生産者が安定して高品質な果実を生産できる品種の育成に取り組んでいます。

また、「4Lサイズ果実 60%生産」を目標として超大玉生産が可能で輸出に適する硬肉質品種の育成に取り組んでいます。



大玉で外観の優れるおうとう新品種「山形C12号」(やまがた紅王)

課題2 西洋なしオリジナル優良品種の開発

西洋なしの「ラ・フランス」に偏重した生産を回避するため、「ラ・フランス」の前後に収穫可能で、良食味で外観も優れる品種の育成に取り組んでいます。

さらに果皮色が黄色に変化して食べ頃が判りやすい品種など、特色のあるオリジナル品種育成に取り組んでいます。



肉質が良く、西洋なし最高の甘さの「メロウリッチ」

課題3 りんごオリジナル優良品種の開発

近年、気象条件が温暖化傾向にあり、高温によるりんごの着色不良や果肉障害、黒星病など主要病害の発生が問題となっています。

そこで、良食味で高温条件下でも着色良好で肉質硬く日持ち性が良く、黒星病など主要病害に強いオリジナル優良品種の育成に取り組んでいます。



中生で着色がよく、食味に優れる本県初のオリジナル品種「秋陽」

課題4 ぶどうオリジナル優良品種の開発

良食味で果皮ごと食べられる「シャインマスカット」の登場により、大粒ぶどうへのニーズが高まっています。

そこで良食味で高温条件下でも着色良好な赤・黒色の果皮ごと食べることができるオリジナルの大粒ぶどうの育成に取り組んでいます。

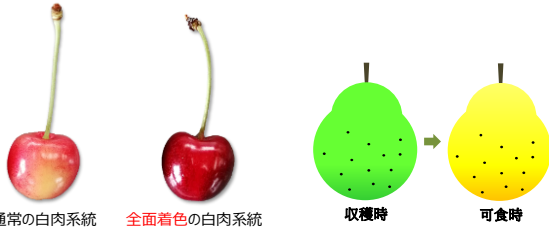


育成中のぶどう実生

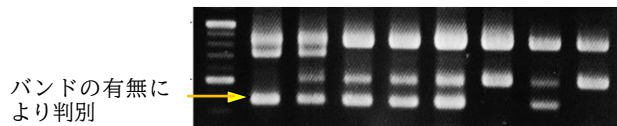
課題5 第2期 DNA マーカー利用による果樹育種 支援システムの開発

最新のDNA配列情報などを解析しておうとうの果皮の全面着色形質や裂果のしやすさ、果肉の硬軟、西洋なしの食べ頃判定の目安となる果皮黄化性や単為結果性などのDNAマーカー開発に取り組んでいます。また、DNA断片自動解析装置により、おうとう、りんご、ぶどう等の既開発マーカーの低コスト自動検出体系を構築しています。

着色管理をしない場合



おうとう果皮の全面着色形質や西洋なしの果皮黄化性等に関係するDNAマーカーの開発



DNA断片自動解析装置による効率的な遺伝子解析